

14. シクラメン

・殺菌剤

FRAC コード	薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
41+25	アグリマイシンー 1 0 0	散布	葉組み時	8 回以内 (但し、土壌 灌注は 4 回以内)	
1	トップジンM水和剤	散布	－	5 回以内	
BM2	ボトキラー水和剤	ダクト内投入	発病前～発 病初期	－	花き類・観葉植物
M1	キノンドー粒剤	土壌混和	鉢上げ時又 は鉢替え時	1 回	
	キノンドー水和剤 4 0	葉柄基部散布	発病初期	4 回以内	

・殺菌剤 (参考農薬)

FRAC コード	薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
M1	(有機銅) オキシンドー水和剤 8 0	散布	発病初期	5 回以内	
	キノンドーフロアブル	散布	発病初期	4 回以内	
M3	ジマンダイセン水和剤	散布	－	1 回	
3	ヘルシード乳剤	散布	発病初期	6 回以内	シクラメン (施設栽培)

・殺虫剤 (参考農薬)

IRAC コード	薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
14	パダンSG水溶剤	散布	発生初期	5 回以内	

- 注1) 使用回数はその薬剤の使用回数を記載しており、この他に薬剤に含まれる成分毎に、総使用回数が決められているので、農薬ラベル等を確認してそれを超えないように注意する。
- 注2) 薬剤抵抗性の出現を防ぐため、「FRACコード」や「IRACコード」を参考にしながら他系統剤とのローテーション使用を心掛ける (「薬剤抵抗性管理」参照)。
- 注3) 農薬登録上の作物名が標記の作物名と異なる場合、備考欄に記載した。
- 注4) 蚕毒・魚毒については、「24. 花き類の総括注意」も参照する。

病害虫名 (F : 菌類病、B : 細菌病、V : ウイルス病、O : その他の病原体)

病害虫名	防除時期	防 除 方 法	注 意 事 項
萎 凋 病 (F)	は 種 時 鉢 替 前	1. 培土は蒸気消毒などを実施して無病土を 必ず用いる「IX土壌消毒」の項参照。 2. 育苗箱や鉢は徹底的に洗浄する。	1. 発病して枯死した鉢は直 ちに処分する。
葉腐細菌病 (B)	は 種 時 鉢 替 前	1. 培土は蒸気消毒などを実施して無病土を 必ず用いる「IX土壌消毒」の項参照。 2. 育苗箱や鉢は徹底的に洗浄する。	1. 夏季の鉢替え作業が発病 を助長する。 2. 本病は細菌性病害である ので、各作業後に予防的に 薬剤処理を行う。
	鉢 上 げ 時 又 鉢 替 時	1. キノンドー粒剤を 1 鉢 (用土約 1 リットル) 当り 5～10 g を培土に混和処理する。	
	鉢 替 後	1. キノンドー水和剤 4 0 の 5 倍液を、鉢替直 後から 1 ヶ月間隔で葉柄基部に散布する。	
	葉 組 み 時	1. 葉組み作業直後に薬剤を散布する。 2. アグリマイシンー 1 0 0 の 1,000 倍液を散 布する。	1. 夏季の高温多湿時の散布 は葉害 (クロロシス) を生 じやすいので注意する。
軟 腐 病 (B)	鉢 替 時 生 育 期 間	1. 培土は蒸気消毒などを実施して無病土を 必ず用いる「IX土壌消毒」の項参照。 2. 育苗箱や鉢は徹底的に洗浄する。 3. 施設内が過湿にならないよう換気を図る。	1. ベンチ下に被覆資材を敷 くなどして土の跳ね上が りが起こらないように注 意する。

病害虫名	防除時期	防 除 方 法	注 意 事 項
炭 疽 病 (F)	生 育 期 間	1. 培土は蒸気消毒などを実施して無病土を必ず用いる「IX 土壌消毒」の項参照。 2. 育苗箱や鉢は徹底的に洗浄する。 3. 施設内が過湿にならないよう換気を図る。 4. 発病を見たら、直ちに罹病部を除去し、薬剤を散布する。 [参考農薬] 1. キノンドーフロアブル、ジマンダイセン水和剤、ヘルシード乳剤の 500 倍液、オキシンドー水和剤 80 の 1,000 倍液のいずれかを散布する。	1. 窒素過剰は発病を助長するので注意する。
灰色かび病 (F)	生 育 期 間	1. 施設内が過湿にならないよう換気を図る。 2. 発病を見たら直ちに罹病葉を除去し、薬剤を散布する。 3. トップジンM水和剤 1,500 倍液を散布する。 4. ボトキラー水和剤を 1 日当り 10～15g/10a ダクト内投入して飛散させる。	1. 薬剤耐性菌の出現を避けるため同一系統薬剤を連用しない。 2. ボトキラー水和剤のダクト内投入に関しては「23. ボトキラー水和剤のダクト内投入処理をする場合の注意事項」を参照する。
黄化えそ病 (TSWV) えそ斑紋病 (INSV) (V)	生 育 期 間	1. ウイルス感染苗による伝播は広範囲に及ぶため、育苗時のウイルス感染に厳重注意する。 2. アザミウマ類の飛来・増殖を徹底的に阻止する。そのために、ハウスの開口部に防虫ネット(0.4mm 目合い)を使用する。また、ミカンキイロアザミウマの項、又は「21. 花き類・観葉植物」の項を参考に、殺虫剤を定期的に散布する。 3. ハウス周辺の雑草は伝染源になるので、定期的に除草する。 4. 罹病株から順次二次伝染が起こるので、発病株は早期に除去し、ほ場外に埋却する。	1. いずれのウイルスも、アザミウマ類により伝搬される。 2. 両ウイルスには簡易診断キットが市販されているので、それらを用いて診断可能である。
ミカンキイロ アザミウマ	生 育 期 間	1. 施設開口部を防虫ネット (0.4mm 目合い) で被覆する。 2. 周辺の雑草が発生源になるので、除草に努める。 [参考農薬] 1. パダン S G 水溶剤 1,500 倍液を散布する。	1. パダンは蚕毒に特に注意する(特別指導事項参照)。